

第 8 回がんちゃん国際フォーラム講演会開催報告

1. がんちゃん国際フォーラム開催趣旨

本講演会は、国際舞台の一線で活躍する有識者の講演を通じ、本学学生がグローバル化のなかでの地域のあり方を考え、実践する(いわゆる「Think globally, act locally」)きっかけとして、国際的なセンスを磨くことを助けることをもって、本学の目指す持続可能な社会づくりの担い手となる国際理解力のある人材育成に資することを目的としている。

なお、フォーラム名称に岩手大学のイメージキャラクター「がんちゃん」を冠することにより、学生に親しみを感じてもらうことを狙った。さらに、がんちゃんの角のように国際理解に対する知的好奇心のアンテナを高くかかげ、国際的に通用する情報受信力・発信力を養ってもらいたいという願いを込めている。

2. 開催概要等

2.1 講演会概要

- ・ 名称： 第 8 回がんちゃん国際フォーラム講演会
- ・ 主催： 岩手大学国際交流センター
- ・ 共催： 男女共同参画推進室
- ・ 開催日時： 平成 24 年 7 月 10 日(火) 13:00～14:30 (90 分) (12:30 開場)
- ・ 開催場所： 岩手大学 学生センターA 棟 2F G2 大教室
- ・ 講演者： 中村かおり 厚生労働省大臣官房国際課総括課長補佐
- ・ 講演テーマ： 「グローバルに女性が『働く』ことをめぐって
—— 米国で出会った日本人、外国人」
- ・ 対象者： 学生、教職員及び一般市民、参加者約 200 名

2.2 PR 及び関係機関への周知等

PR のため、学内に本講演会ポスターを掲示するとともに、学生向け PR チラシを作成し、関連する分野の教員を通じ学生への配布を依頼した(ポスター等は学内印刷機で作成することにより、経費節約に努めた。)。また、岩手大学ホームページの「イベント情報」及び国際交流センターホームページに開催案内を掲載した。併せて、上記共催機関を通じ、関係者への周知を図った。

3. 実施報告

3.1 講演の概要

第一線で活躍する女性行政官の講師が、在アメリカ日本大使館での経験や、厚生労働省での仕事の魅力と国内外のキャリア形成機会について講演を行った。概要は以下のとおり。

(1) 女性の社会参画

講師の自己紹介を通じて、厚生労働省での女性のキャリア形成の事例の紹介がなされた。続いて、男女格差解消が進んでいる国のランキング(世界経済フォーラム『世界のジェンダー格差報告書 2011』)を引用して、男女格差が小さい北欧諸国(1位アイスランド)に比して、日本は135か国中98位として下位にあること、なかでも、国会議員数(97位)、賃金格差(93位)、経営者数(112位)の指標において格差が著しいとの指摘がなされた。さらに、アメリカ Foreign Policy 誌の女性政治家アンケートにおいて、政治の世界での女性差別を感じるという回答が75%に及んでおり、「女性は...すべき、女性は...すべきでない」といった差別扱いを受けた経験があるという回答の説明がなされた。



(2) 米国で働く人々の姿

続いて、講師が昨年まで3年間の在アメリカ日本大使館一等書記官としての勤務経験を通じて感じたことの紹介がなされ、アメリカ労働省では、移民のルーツをもつ女性労働長官(大臣)のもとで、局長クラスなど幹部にも女性の活躍が目立つことなど、日米の会談の写真を挙げて説明がなされた。

そこで、労働力率をもとに日米比較すると、移民を除くアメリカの労働力率の男女格差は10.5ポイントであるのに対し、日本では20.7ポイントもの差があることの指摘がなされた。さらに、アメリカでは募集段階において、機会均等を尊重する雇用主(Equal Opportunity Employer)であることが採用広告の決まり文句になっていること、公民権法第7編において、性別等に基づく雇用差別が禁止されていること、実際に差別が認定された裁判例の紹介や、オバマ政権のもとで公正賃金法(男女の賃金格差禁止)の改正がなされ、かつては、差別を知ったときから2年を限度にしか請求できなかったのを、賃金支払期ごとの差別認定が可能となったことの紹介がなされた。他方、外国人労働者などの低賃金労働の現状についての事例も紹介された。



(3) 海外で暮らす、働く

以上のアメリカでの人々の働き方の紹介から目を転じて、学生が将来、海外で暮らす、働くことについて説明がなされた。とくに、外国暮らしのきっかけとして、留学や、結婚、ワーキングホリデー、企業・役所からの海外派遣や国際機関や外国企業への海外就職など多様なルートがあること、とくに、国家公務員対象の人事院長期在外研究員制度や、若手の国際機関への就職を支援する外務省国際機関人事センターによるJPO 制度の説明がなされた。併せて、アメリカで活躍する日本人女性の事例が紹介された。

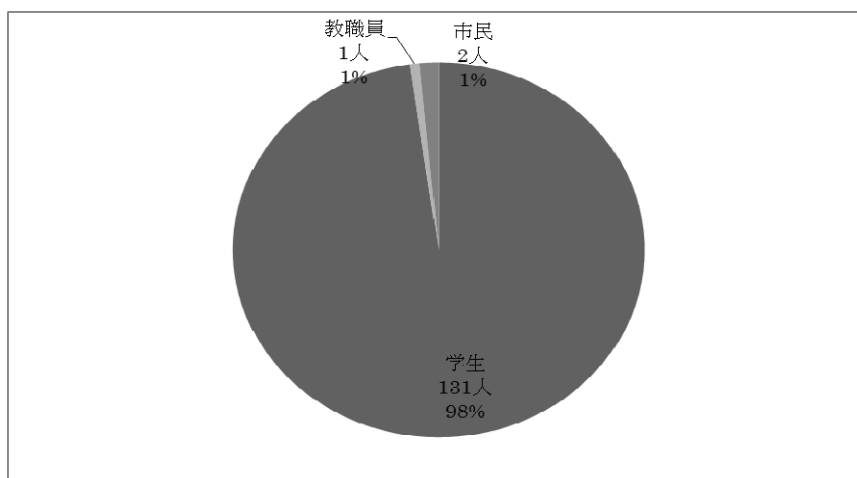
(4) 働く女性への支援

最後に、働く女性を支援するための政府の取組について紹介がなされた。とくに、雇用機会均等法に基づく雇用機会均等の確保や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現のための取組がなされていること、最近では、「働く『なでしこ』大作戦」（平成24年6月22日）（「女性の活躍促進による経済活性化」行動計画）に基づき、男性の意識改革や、思い切ったポジティブアクションの実施のほか、公務員について女性の採用拡大（国家公務員 30%）などの計画が実施されていることの説明がなされた。

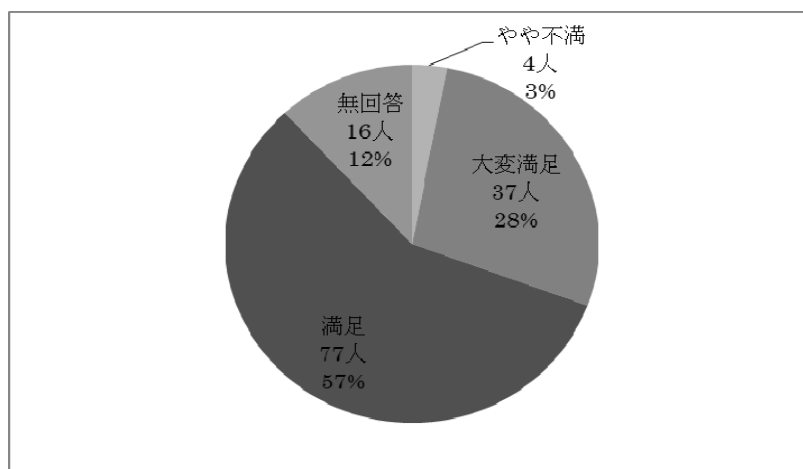


3.2 アンケート集計

(1) 回答数 134 人(回答率約 67%)



(2) 満足度(大変満足+満足が回答者の99%)



(3) 自由回答(抜粋)

- ・(学生) 普段聴くことができない話を直接聞くことができよかったです。国際的にみて、日本ってまだまだ女性の進出が妨げられているなど感じました。今回の話を聴いて、すごく視野が広がったと思います。世界は広い！「はたらく『なでしこ』大作戦」は面白いと思った。
- ・(学生) 貴重なお話を聴くことができ良かったです。興味のある内容だったので面白かったです。海外への留学や就職に興味があるので、今日学んだ制度などを有効利用していきたいと思います。
- ・(学生) ジェンダーに関する社会的実情を知れたのはとても貴重な経験になった。また、海外でのジェンダーに関する事例を知れたのはよかった。
- ・(学生) 自分の将来展望を国内にとどめず、海外に広げることで、まだまだ自分を高める余地があると感じ、さらなる努力を行わなくてはならないと感じました。
- ・(学生) 私は全く海外で働くということについて視野には入れていませんでしたが、今回の講演を聞いて、日本とは異なる文化や男女比の中で働いていくことに興味を持ちましたし、すごくかっこいいと思いました。近年、日本はだいぶ男女格差が狭まってきていると思っていましたが、世界的にみるとまだまだであることを知り、驚きました。今日はありがとうございました。
- ・(学生) 日本の女性の社会進出は、歴史が浅かった。私も道を開拓できるような人になれたらと思った。語学力が大切だと思った。がんばれたら、がんばりたいです！！
- ・(学生) 日本の共同参画がもっと進めばよいと思った。お話は聞きやすく新鮮で面白かったです。
- ・(学生) アメリカの方が女性の社会進出が進んでいることはなんとなく知っていたのですが、ここまで日本より進化しているとは思いませんでした。外国に実際に留学して自分の目で現状をみたいと思いました。
- ・(学生) もともと海外で暮らすこと、働くことにたいへん興味があったが、就活を目前にその気持ちを抑え込んでいた。今回の講演で感じたことを踏まえて、もう一度自分の将来について考えていきたい。

以上

参考 がんちゃん国際フォーラムの実績

年度	講師	講演テーマ	講演概要
2007 年度	上野景文 駐バチカン特命全権 大使	グローバル化のなかの 国際理解「欧州から日 本を考える」	大きな小国バチカン。10億のカソ リック教徒のネットワークを活用 し、対アフリカ支援など独特の外 交を展開。
2008 年度	池田勝也 前駐タンザニア特命 全権大使	グローバル化のなかの 国際理解「アフリカと 日本——タンザニア駐 在で見たアフリカ」	アフリカの貧困の現状及び日本の 対アフリカ支援について紹介。資 源開発の観点から対アフリカ外交 の重要性増す。
2009 年度	井上正幸 前駐バングラデシュ 特命全権大使	グローバル化のなかの 国際理解「数字から考 えるグローバル化の中 の国際理解—バングラ デシュを事例として」	バングラデシュは、インドに囲ま れた気候変動の最前線にある親日 国。元留学生の逸話を通じ、岩手 との連携の可能性について語る。
2010 年度	坂場三男 外務省特命全権大使 (イラク復興支援等 調整担当兼気候変動 枠組条約第16回締結 国会議(COP16)担 当)・前駐ベトナム特 命全権大使	グローバル化のなかの 国際理解「明暗を分け る日越関係と気候変動 問題」	現役のベテラン外交官が率直に語 る外交の現場での出来事。「二国間 関係とマルチ外交」という相異なる 側面から日本の国益が何である かを考える。
2011 年度	楠田弘子 ルイジアナ州弁護 士・ロヨラ大学助教授	「アメリカニューオー リンズからみた東日本 大震災と復興支援」	2005年ハリケーン・カトリーナに よる大洪水に襲われたニューオー リンズ。ニューオーリンズ復興の 経験が示唆するものとは何か。(ニ ューオーリンズ日本人会等の NOLA JAPAN QUAKE FUND の活動で来日)
	堀江正彦 特命全権大使(地球環	グローバル化のなかの 国際理解「多文化国家	現役外交官が語る日本外交の最前 線。多文化国家マレーシアが示唆

	境問題担当) (現職)・ 前駐マレーシア特命 全権大使) ※2011 年度 EMS 公開 セミナーとの共催	マレーシア そして気候変動問題 (COP17)」	する日本の国際化のあり方と日馬 関係の未来。日本マレーシア国際 工科院に奔走した大使の誠実外 交。そして、地球環境問題担当大 使として臨む南アフリカでの COP について直前レポート。
	Sigurdur M. Gardarsson アイスランド大学社 会環境工学部長・教授	アイスランドの環境と 防災	火山と温泉、海と水産物など、似 ているところのあるアイスランド と岩手。火山国ならではの防災や、 環境を生かした地熱発電などエネ ルギー政策について学ぼう。
2012 年度	中村かおり 厚生労働省大臣官房 国際課総括課長補佐	グローバル化のなかの 国際理解「グローバル に女性が『働く』こと をめぐって—— 米国 で出会った日本人、外 国人」	アメリカ大統領選挙の今年、知っ ているようで知らないアメリカ社 会について学びましょう！第一線 で活躍する女性行政官が、在アメ リカ日本大使館での経験や、厚生 労働省での仕事の魅力と国内外の キャリア形成機会について語りま す。

内容(キーワード): グローバル化のなかの国際理解、持続可能な国際社会づくりのなかでの日本のありかた、各国事情等。※岩手大学の学生に対する提言を含む。

なお、2010 年度において、在バングラデシュ日本国大使館大村浩志一等書記官(当時)とのトークセッションを開催した(バングラデシュ留学生を含む学生、教員、市民が参加)。

(早川智津子 国際交流センター)